

# ダム等管理フォローアップ

## 意見を受けての報告書修正対応表

【鳴鹿大堰】

平成22年 3月

近畿地方整備局  
福井河川国道事務所

## 【鳴鹿大堰】

### 1．事業の概要

特になし

### 2．治水

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.5 洪水時の 放流量の 算定誤差  本編 P2-35	・P2-35の図2.5-5平成17年7月洪水の図において、堰上流右岸水位と堰上流左岸水位が重なっている。本当にそうだとすれば、検証が必要になる。（概要版に対する意見）	【委員会の意見により修正】 概要版の図が堰上流右岸水位のみの表示となっており誤りがあったので修正する。 報告書の図は正しいので修正は必要ない。	-

### 3．利水補給

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
3.2.1 鳴鹿大堰 からの取 水実績  本編 P3-5	・鳴鹿大堰からの取水実績として、P3-5の図3.2-1に年間の日平均で何m <sup>3</sup> /s取ったかというグラフがあるが、これは年間のトータルなので、月単位にすれば、どれだけ取水したかわかりやすくなるのではないか。	【委員会の意見により修正】 ・P3-5 図3.2-1を月単位で区分したグラフに修正する。	-

### 4．堆砂

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
4.3.2 今後の方 針  本編 P4-13	・堆積土砂を掘削による撤去は費用もかかり掘削後の土砂をどうするかという問題も出てくると思うので土砂が堆積しないような操作を目指すのが基本だと思う。	【委員会の意見により修正】 本編P4-13に以下の文章を追加する。 なお、河道掘削については土砂の有効利用、コスト縮減の観点から砂利採取業者による掘削を基本とするが、洪水時のゲート操作において、下段扉操作順序の変更による堰直下の堆砂形態改善についても検討を実施する。	-

## 5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.5.3 水温の変化の評価 本編 P5-96	<p>・P5-96の図5.5-7～9で鳴鹿大堰地点における水温と気温の相関関係により上流ダム群の放流による、鳴鹿大堰地点での水温への影響を確認しているが、ほとんどの川で水温と気温とはある程度相関があり、水温と気温の相関の確認はあまり意味をもたない。真名川ダム、九頭竜ダムの放流水温と、鳴鹿大堰の水温は比較的一致しており、基本的にダムの放流水温でほぼ決まっている事を表している。ダムの放流による鳴鹿大堰地点水温への影響については上流ダムへの流入水温との相関を確認した方がよいが、この堰ではそこまで必要はないと思われる。</p>	<p>【委員会の意見により削除】 この堰ではあまり意味を持たず必要がないことから削除する。</p>	<p>上流ダム群の放流による河川水温への影響については、九頭竜ダム及び真名川ダムのフォローアップで整理する。</p>

## 6. 生物

特になし

## 7. 堰と周辺地域との関わり

特になし

## 8. その他

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
治水	<p>・放流量の算定に当たって、流入量、取水量及び貯留量の変化量から算定する方法における、貯留量の算定に用いる堰上流の水位について、左右岸に水位差があるため、これからも洪水時における左右岸での水位差などデータを蓄積しながら、今回の提案された方法についてもさらなる改善を進めていく必要がある。</p>	-	<p>放流量算定に当たって、引き続き飯島地点で流入量の観測、堰上流左右岸の水位等のデータの蓄積を実施すると共に、堰直下流の五松橋地点及び九頭竜川支川永平寺川地点にて流量観測を行い、堰放流量算定結果との比較検討によりさらなる改善を実施する。</p>
利水	<p>・利水の面で日常的な管理において、堰をどういう形で運用しているのか。流入量と放流量を積算して、この期間にどのくらい補給または貯留しているのかといったことが、一目でわかるような図表に整理するべきではないか。</p>		<p>鳴鹿大堰では、堰水位を常時満水位に一定に保ち堰上流の取水設備の取水位を確保し、洪水時には、流入する洪水を安全に流下させるという操作を行っており、補給・貯留といったダムのような操作実績がほとんど無いため、他のダムを整理する際には参考とさせていただきます。</p>

頁	修正前	修正後
P3-5	<p>3.2.1 鳴鹿大堰からの取水実績</p> <p>図 3.2-1各年の取水状況</p>	<p>3.2.1 鳴鹿大堰からの取水実績</p> <p>図 3.2-1各年の取水状況</p>
P4-13	<p>4.3.2 今後の方針</p> <p>今後も河川測量などを継続して、堆砂量を把握していく。但し、堆砂量については大きな変化がないので、今後は測量頻度を下げるなどの合理化を図っていく。 また、堰直下流の堆砂が進行している箇所については、流下能力の低下や樹林化など懸念されるため、必要に応じて河道掘削等を行う。</p>	<p>4.3.2 今後の方針</p> <p>今後も河川測量などを継続して、堆砂量を把握していく。但し、堆砂量については大きな変化がないので、今後は測量頻度を下げるなどの合理化を図っていく。 また、堰直下流の堆砂が進行している箇所については、流下能力の低下や樹林化など懸念されるため、必要に応じて河道掘削等を行う。 なお、河道掘削については土砂の有効利用、コスト縮減の観点から砂利採取業者による掘削を基本とするが、洪水時のゲート操作において、下段扉操作順序の変更による堰直下の堆砂形態改善についても検討を実施する。</p>
P5-96	<p>5.5.3 水温の変化の評価</p> <p>鳴鹿大堰地点の水温と気温の関係を以下に整理した。九頭竜川上流域には複数の発電ダムが存在しているが、鳴鹿大堰地点の水温と気温の3日移動平均値の関係は相関係数R2が0.9333となっており、良好な相関関係にある。鳴鹿大堰地点における水温と気温(日平均)は連動しており、上流ダム群からの放流水は流下の過程において気温の影響を受け、鳴鹿大堰地点では上流ダム等の放流による水温への影響は生じていないと考えられる。 なお、2004年、2005年、2006年の7月に水温が低下する日がみられるが、これは比較的規模の大きい洪水の発生日と一致している。</p>	<p>5.5.3 水温の変化の評価</p> <p>本文及び図5.5-7～図5.5-9を削除</p>